

ヒルムシロ科	ミズヒキモ (稀)	ガマ科	ガマ (少)
	ヒロハノエビモ (稀)		コガマ (少)
	確認記録はあるが現在は絶滅したと思われる。		ヒメガマ (普)
	ササバモ (稀)	アカウキクサ科	オオアカウキクサ (稀)
	エビモ (普)		アカウキクサ (少)
	ヤナギモ (少)	サンショウモ科	サンショウモ (少)
	イトモ (少)	デンジソウ科	デンジソウ (稀)
	センニンモ (稀)	ミズワラビ科	ミズワラビ (少)
ミクリ科	ミクリ (稀)	トクサ科	イヌドクサ (少)
	ヤマトミクリ (稀)	ミズニラ科	ミズニラ (稀)

館林市におけるオニバスの生育地

青木 雅夫

北限地に近い群馬県館林市の多々良沼周辺の水路(幅約1.7m)の一部にて、1982年夏、オニバスを観察した。6月頃、発見当時の浮葉は、ヒメシロアサザのそれとよく似ており、見まちがえるほどであったが、7月から8月にかけて、葉や葉柄は日に日に成長し続け、花柄も伸長して、たくさんの花をつけた。花は水上で一日咲くと水中へ徐々に沈んでしまうが、中には水中で咲いてしまうものもあった。さらに閉鎖花もあったようである。開花は、朝8時30分頃から午後1時頃までで、2時頃には閉じ始めている。種子は9月下旬から流れ、寒天状のものにつつまれた1cm位の硬い種子が採集された。市の環境保全課が保護にのり出し、観察池を作って一株移植に成功し、そこでたくさんの花を観察することができた。採集した種子は、観察池や水産試験場、さらに同市周辺の沼へ播種し、増殖をはかろうとしている。今後さらにくわしい研究をすすめたいと考えている。

(館林市立第一中学校)

ミズアオイとその仲間

斉藤 吉永

秋の休耕田でひととき美しい碧紫色の花をつけたミズアオイ *Monochoria korsikowii* Regel et Maack の群落に出合うとしばしば足をとめてたずむ程の魅力がある。濃緑の葉と碧紫色の花のコントラストがまた素晴らしいからに他ならない。

ミズアオイ科の中に3属があるがその中の自然の傑作とも言えるだろうか。^{ザオウスマ}かつて下総印旛沼畔や座生沼に数百株、いや数千株にも

及ぶ大群落があったのに最近は大群落が消えて、せいぜい数十株の小群落と変ってしまったのは何故だろうか。

まれに白花の form. *albiflora* Honda (シロバナミズアオイ) を見ることがあるがこれは清楚というかすがすがしい花である。

同属のコナギ *M. vaginalis* Presl, var. *plantaginea* Solms は萬葉集にもあるが水田などにごく普通に生える雑草で農家の厄介もののだが、ミズアオイのミニ版といった感じのなかなか捨て難い草である。これにもまたまれに白花のシロバナコナギ form. *albiflora* Sakata があるというが私は残念ながらまだ見ていない。

南アメリカや熱帯アフリカに6種を産するというこの属の中でよく知られているのはホテアアオイ *Eichhornia crassipes* (Mart.) Solms. で日本には明治年代に渡来したといわれるが、金魚鉢に入れられたりしておなじみの水草で暖い地方では害草扱いにする程繁殖力は強い。現在は別の面で見直されて汚水浄化に一役買って貰うべく研究にも力が入ってきたが、葉柄がふくらんで和名のおりの愛嬌のある、そして花の美しいこの草の名誉が挽回されてほしいと思っている。

他のものが日本で栽培されているかどうかは知らない。

尚、最近日本でも野化し始めたと聞くアメリカミズアオイ属は熱帯アメリカに8種が知られているが、その中のどれが野化しているのであろう。広く栽培されているのは *Pontederia cordata* L. でアメリカミズアオイと呼ばれるのだが、*P. paniculata* が熱川バナナワニ園に導入されていると同園研究室の清水秀夫氏から御教示頂いている。或いは他の *P. lancifolia* とか *P. sagitata* や *P. maritima* なども栽培されているかも知れないので、これらの中から逃げだして野化したのであろうから野化の現場で実物を見たいものと願っている。